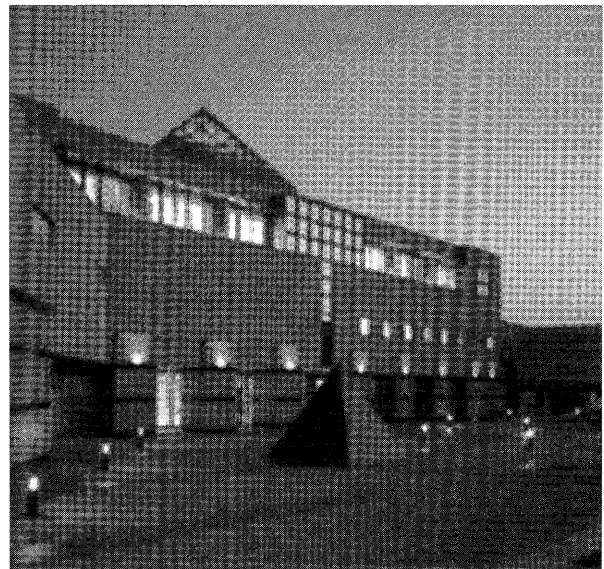


VII. 春日市ふれあい文化センター

春日市ふれあい文化センターは、福岡市のベッドタウンに立地する複合文化施設。青少年を企画面と運営サポートの両面から、施設運営のボランティアとして取り込むことによって、街全体の青少年の活動を活性化させつつ、地域に密着したホール運営の可能性を模索している。

📄 施設・運営の概要

運営母体	(財)春日市文化スポーツ振興公社
所在地	福岡県春日市大谷 6-24
TEL	092-584-3366
FAX	092-501-1669
開館年月	1995年4月
複合形態	複合館（図書館、ホールなど）
施設特性	音楽ホール
座席数	中：600、小：302
自主事業予算	年間1億円以上
自主事業数	年間80～90本（平成8年度）
立地都市人口	約10万人（H8.11.）
組織体制	総務系:6、企画系:9、技術系:2、計17 （技術系2は外部委託スタッフ）



😊 ボランティア制度の概要

名 称	・K's Crew（ケイズ・クルー）
導入時期	・1995年3月
登録人数	・40名
導入の経緯	・市民の顔の見える運営を検討する中で、30歳未満を対象にホールの運営に参画してもらうボランティア制度を導入することとなった。
活動内容	・ボランティアの業務の内容は①公演サポートと②企画協力の二つに分けられる。 ・企画・制作、広報・宣伝、舞台・音響・照明、受付・案内
募集方法	・センター発行のイベント広報紙によって公募。自分のやってみたいイベント等の「企画提案書」を出してもらう。ボランティアとしては基本的に応募者全員を採用。
研修	・とくになし。
実費支給	・公演サポートに関してのみ770円/時間を支給。
その他	・企画協力業務は、アコースティック・トークライブ（地元で活躍するアマチュア・ミュージシャンのコンサート）について出演者探しから、当日運営までを全てボランティアでやっている。 ・将来的にはボランティアが自主事業を実行委員会形式で実施するような形で機能してほしい。

1. センターの立地環境とボランティア制度導入の経緯

(1) 立地環境

- 春日市の人口は約10万人で増加傾向が続いている。ただし、通常の人口増加のパターンとは大きく異なっており、約4分の1が転出入を繰り返しながら、毎年2～3千人ずつ増加している。これは、福岡への通勤族が多いということ（福岡は支店のまちと言われている）と、自衛隊の駐屯地が2ヶ所あることが影響している。
- そうしたことから、現在の春日市にはいわゆる“地縁”による人々の結びつきが少なく、どこか他の地区で生まれ育った人が多い。市の青年団も30年前になくなったまま。唯一春日市の中心部で、春日の婿押し祭りというものが300年前から続いており、青年の活動が存続しているのみ。
- 福岡市に隣接する春日市は、福岡市のベッドタウン化が進み、市民の顔が見えない町になりつつある。市内の人口は10万人を越え、1学年約1,600人の学生がいるが、昼間にとくに若い男性の姿を見ることがめっきり少なくなってしまった。現在スポーツや文化活動を楽しんでいるのは、年輩の女性が中心である。
- 春日市の青年層は、天神や中州で遊んで、夜遅く帰ってきて寝るだけといった状況になっており、センターの運営に、なんとかこれらの青年層の力を借りたいと考えている。

(2) ボランティア導入の経緯

- センターでは、市民オーケストラや少年少女合唱団など、人づくり、人材育成に力を入れており、ボランティアのK's Crewもその一環と言える。
- センターがオープンしたのは1995年4月1日。ボランティアに関する企画はオープンの前年に検討された。福岡の都心部に近い立地ではあるが、逆に人気のあるアーティストをだれでも呼べるような立地にはないため、半分は貸し館になざるを得ないと考えた。
- 残りの半分を何とかホール側で主体的に運営する方法、しかも市民の顔の見える運営方法を検討する中で、30歳未満を対象に、ホールの運営に参画してもらおうボランティア制度を導入することとなった。
- 中年層の女性を対象にしたボランティアについても検討したが、古株がボランティア団体を牛耳ってしまったら、そうすると若い人がセンターの活動を面白くないと感じたりするのではないかという意見も出た。そこで、まず若い人を対象にした現在のボランティアを導入し、それが軌道に乗ってきたら、中年層の女性を対象にしたボランティア組織についてもいずれは検討したいと考えている。

2. ボランティア制度の内容

- ボランティアの位置づけとしては、ホールの運営をサポートするためのボランティアではなく、主体的に事業を企画・運営するボランティアという性格が強いかもしれない。

(1) ボランティア制度の概要

① メンバー構成等

- ボランティアメンバーの数は現在40名で、そのうち常時活動しているメンバーは3分の2前後。男女比は3対7で女性の方が多い。男性メンバーはかなり休眠状態だが、活動には参加しなくてもボランティアメンバーはやめたくないという人が多い。女性はOLが中心、ボランティアを始めてからOLをやめた人が二人いる。
- 電車で片道1時間半もかかるメンバーもおり、熱心にボランティア活動をする姿には、感心している。
- K's Crew という名称は、ボランティアメンバーの議論の中から生まれたもの。スタッフという言葉を使いたくないということで、乗組員を意味するクルーという言葉になった（K'sのKは春日市のという意味）。

② 募集方法

- スタッフの募集は、センターの発行するイベント広報紙に「ふれあい文化センターの事業の企画や運営をサポートする方としてボランティアを募集します」といった趣旨の募集文を掲載して行った。
- 応募した人全員に、自分のやりたいコンサートについて「企画提案書」を提出してもらい、それを全員に配布した。
- 基本的に応募者全員にボランティアメンバーになってもらったが、応募はしたけど1回も来なかった人が18人いる。随時受け付けているため、最大時には53名になったこともあるが、その後35名になり、再募集で5名が加入し現在40名。中には、メンバーの口コミで参加した人もいる。
- 募集の条件としては、30歳未満の独身者を対象とした。中には加入後30歳を越えてしまった人もいるが、やめるかどうかは、メンバー自身で決めてほしいと考えている。

● センターの広報紙「エイ・メッセ」創刊号に掲載された募集案内



● ボランティア コンサートスタッフ

平成7年4月以降、各種コンサート事業や演劇公演、イベントのサポートをしてくれるコンサートスタッフを募集します。

内容は、公演時の舞台裏方・会場整理・タレント接待・企画立案の補助などです。

募集人員は男性15名、女性10名。条件は、いずれも30歳未満の好奇心旺盛で元気な独身者とします。

センターまでハガキで応募するか、直接おいでください。

③ 参加の動機

- 参加の動機はまちまちだが、仕事と家以外に、プライベートな時間をもっと有意義に使いたい、ということが多いようだ。高校生のメンバーは、サポートしているときにホンモノのアーティストが見れるからということを経由にあげていた。
- ボランティアのキャプテンは、学校の先生をやめて現在は印刷関係のデザイナーをやっている人。今のコンサートがアーティストとの距離が遠くなってしまっていると感じ、もっとアーティストと近く感じられるようなコンサート、本当に見たいもの聞きたいものを企画できないかということで、ボランティア活動に取り組んでいる。

④ 研修

- ボランティア導入に際して、民間プロモータの話を書かせるなどのことを考えたこともあったが、実際には研修は行わなかった。今後は、1年に1回ぐらいは何らかの形で研修を実施する予定である。
- 職員だけで対応できる事業の場合も希望があれば出てきてもらい、ウラに回って見ているだけでも、ボランティアにはいい研修になると考えている。

(2) ボランティアの業務内容

① 業務の内容

- 業務の内容は、大きく①公演のサポートと②企画協力の二つに分けられるが、中には①だけでいいという人もいる。
- 企画関連の業務としては、「アコースティック・トークライブ」が年間11回（毎月第一土曜）、「リレートークライブ」が年1回、「サンホールライブ」が年3回。
- サポート業務については、月平均5～6本で年間80本程度。1回のサポート要員は多くても5名ぐらい。仕事の内容としては、オモテのもぎりや観客対応、楽屋のケータリング、後かたづけなど。最近では、簡単な司会をやってもらうこともある。
- 平均の業務時間は3～4時間程度。1日に映画を3回上映する場合などは、9時から20時までと長時間になることもある。

② 企画協力業務ーアコースティック・トークライブ

- センターでは毎月第一土曜日にアコースティック・トークライブという企画（地元で活躍するプロ・セミプロのアマチュアミュージシャンによる小規模なコンサート）を実施しており、現在は、その企画から実施までほとんどをボランティアが担当するようになってきた。舞台のセッティングから照明・音響機器の操作まで自分たちの手でこなしている。
- アコースティック・トークライブは、地元のアマチュアミュージシャンのコンサート（出演料は1万5千円と夕食）で、企画の枠組みは元々ホール側で設定したものだが、現在は天神のライブハウスを回ったりして、出演者を見つけるところから K's Crew が対応している。福岡はいろいろなアーティストを排出している土地柄で、「照和」という喫茶店が彼らの根城にな

● センターの広報紙「エイ・メッセ(1996.9月号)」に掲載されたK's Crew関係の企画

アコースティックトークライブ

地元で活躍するプロ・セミプロ・アマチュアによる、アコースティックなライブ!
アットホームな雰囲気のライブハウス感覚でお楽しみください。(出演者募集中!)

SWEETS 9/7 (土) AVホール 19:00~ **無料**

大学の友人同士で結成したツインボーカルの女性グループ、ギターの上上義知子とヴォーカルの川口和英のバワフルな演奏は必聴!バラードやメッセージソングを中心に、どの曲も心に残るライブとなるだろう。
照和やGRAND TOWNで定期的にライブ実施中。時に福岡駅コンコースにてストリートライブもやる。そのエネルギーをぜひ感じてみよう!
【企画協力】 K's CREW



HOW HAPPY 10/5 (土) AVホール 19:00~ **無料**

ヴォーカルの島塚美智子、ギターの山野修作、ピアノの島塚秀治のトリオによる初めてのジャズ・ホサノバの登場!
それぞれが色々な音楽活動を経て、HOW HAPPYを1995年に結成。現在「デジャヴ」にて定期的にライブ活動中。
期待感満点のライブになること間違いなし!
【企画協力】 K's CREW



サンホールライブ

ビリーバンバン

10/1 火 サンホール (全席自由)
開場18:30 開演19:00

永遠の名曲「白いブランコ」でデビューしたビリーバンバン。
「れんげ草」「さよならをするために」「やさしい雨」など、数々のヒット曲をはじめ、新曲も織りまぜながら今も変わらぬソフトなデュエットをお贈りいたします。
淡き青春の1ページをビリーバンバンと共に振り返ってみませんか?
【企画協力】 K's CREW

前売り **2,500円**
(チケット発売中)
当日500円
アップ

センター
チケット
ローンチケット
FACET

フリーマーケット



11月2日(土)~4日(月)に実施される春日市文化祭の会場において、「リレートークライブ'96&フリーマーケット」を開催予定。そこでフリーマーケットに出店される方を募集いたします。

【日時】 11月3日(日)及び4日(月) 10時~16時
【場所】 春日市ふれあい文化センター周辺(文化祭会場内)
【対象】 18歳以上の方(高校生、プロはご遠慮願います)
【条件】 1 テント4ブース割り(1ブース1.8m×2.7m)で、1ブースあたり500円の出店料必要。

【応募要領】
往復ハガキ又はFAX (FAXの方は必ずこちらからFAX可能な方に限ります)に、①住所②氏名③年齢④連絡先(自宅、勤務先、FAX番号) ⑤希望日⑥希望ブース数を明記のうえ、センターフリーマーケット係宛ご応募ください。
折り返し説明会開催のご連絡をいたします。なお応募者多数の場合は、説明会において抽選のうえ選考させていただきます。
FAX 092-501-1669 【企画協力】 K's CREW



っていた時代もあった。

- 最初、館の方で出演者を探していた時と違い、自分たちで見つけたミュージシャンの場合は、企画だけでなくいろいろな意味で力が入るようで、いきいきと仕事をしている。
- 福岡市内のあるプロモータは、もとは音楽好きがボランティアのような活動から始めて、今では福岡でも有数のプロモータ会社に成長している。K's Crewも現在の活動を地道に続けて、信頼を得られるような集団になって欲しい。センターでやっているアコースティック・トークライブの活動を、彼らがアクロス福岡を借りて公演を行うことで、天神付近の若者に、そうした活動をアピールしたいというようなことも、検討しているようだ。
- 10月1日に実施予定のビリーバンバンのコンサートは、K's Crewが企画・制作に本格的に協力した事業で、今後の展開のひとつの試金石と考えている。

(3) ボランティアの運営

① 有償ボランティアの考え方

- ・公演のサポート業務については、基本的にはアルバイトということで、時給770円を支給している。ただし、センターからお願いした必要スタッフ数を越えて K's Crew が自主的に協力してくれた分については無償。企画協力業務は交通費を含めて無償。
- ・有償ボランティアのあり方については、随分と議論した。当初は、時給400円で K's Crew の会計係が一度プールし、交通費実費と時給200円換算で計算し直した金額を支給していた。しかし、別途サポート要員としてアルバイトを雇う際には、時給800円を支払っており、依頼する業務が同じなのに、時給単価が異なるというのは矛盾しているという話が、センターの経理担当から出てきた。
- ・そのため内部で検討した結果、現在は時給770円とし、財団の経理から各人に直接支払われたものを一度 K's Crew の会計係が回収して、交通費実費と時給400円換算で計算し直した額を支給するようになっている。
- ・有償にすることによって、お金が支給されるサポート業務の方だけに偏ってしまうのではないか、という心配もあった。カネを払うと気を使う必要はなくなって使い易くなるが、ボランティアはアルバイトと違って互いの信頼関係が最も重要で、「使われている」という印象を与えてはいけないと思っている。
- ・導入当初は、K's Crew にお金を支払っているために、センターの中にはアルバイトと同じように接する者がいたが、現在は彼らが決してカネのためにやっているのではないということが浸透して、いい関係ができつつある。
- ・現在は、サポート業務は「アルバイト」、企画協力業務は「ボランティア」と明確に線引きをしている。
- ・大型のパッケージ公演を買い取るような場合には、別途アルバイト要員を雇うこともあるが、極めて希なケース。

② ボランティアのスケジュール調整

- ・K's Crew のメンバーがどの事業を手伝うかということについては、センターの方から必要人数を示し、基本的に手を上げた順に手伝ってもらうようにしている。月2回のミーティングの時にも調整をしているようだ。
- ・当初は人員手配がうまくいかない時期もあり、キャプテンが留守電をつけて対応したようなこともあったが、結局再度調整する必要が生じるため、現在はセンターの担当者に連絡してきた順にお願いするようにしている。
- ・仕事を持って活動しているという制約から、平日の日中イベントに必要な人数が集まらない場合もあり、大学生を勧誘しようという話もある。

③ 運営予算

- ・K's Crew のサポート業務の費用は、昨年度が120万円、今年度が135万円。

④ 保険

- ・ボランティアの保険については保険会社と契約している。年間契約で、1

イベント最大15人の範囲内でボランティアの業務中におきた怪我や物損に対応できる保険。春日市は、市民全員がボランティア保険に入っているが、その保険では対応できないということで、保険会社と内容を検討して新たに契約した。

3. 現在の課題と将来の方向性

(1) ボランティア運営上の留意事項

- ボランティアの運営で最も難しいのは、彼らの中に入り込みすぎではないが、離れてしまってもいけないということ。ホール側のボランティア担当者の熱意といったものも重要な要素。
- (現在のボランティア担当者自身も) 「少年の船」というボランティアを経験しており、その時に得た感動と同様のものを、センターのボランティア活動をとおして感じてくれる人がいると思う。ボランティアとしてセンターの運営に関わっていい思い出を作って欲しい。

(2) 今後の方向性

- 将来的には、K's Crew の活動が活発になり、そのことによって自主事業が活性化されるといい。
- 長期的には、K's Crew が事業の実施に際して実行委員会的な取り組みをする場合があってもいいと考えている。チケットの売り上げも K's Crew の収入になり、館はホールを貸しているだけといったようなスタイルになると面白い。
- そのため、来年は規約を持った組織としたい。現在はセンターに K's Crew が付属した状態になっているが、将来的には K's Crew の組織体制を整えることによって、センターの財団とボランティア団体が対等の立場で仕事ができるような形に持っていきたい。そうすることによって財団の担当者に異動があった時にもスムーズに対応できるようになると思う。
- センターの希望としては、このグループはこのグループのまま成長していき、また、これとは違うグループが生まれ、将来的には、複数のボランティアグループが異なる企画を出し、自ら実施していくような形になってくれると理想的。
- 現在のボランティア制度は、財団（運営側）がサポートしてもらうという関係。将来的には、ボランティアが自主事業を実行委員会形式で実施するように成長すれば、その活動を財団がサポートするといったようなスタイルにしていきたい。
- センターが地域に密着した活動を展開していくには、ボランティア活動はひとつの有効な方法だと思う。現在は建物ができてそのことを誇っているような状態。しかし10年後にはソフトしか誇れなくなる。その時、市民が主体となって活発な文化創造活動が展開されているセンターでありたい。

—以上—

😊 ボランティア・インタビュー記録 😊

Aさん (ボランティア・キャプテン)	Gさん (会社員)
Bさん (会社員)	Hさん (大学研究生)
Cさん (学生)	Iさん (高校生)
Dさん (もとOL)	Jさん (高校生)
Eさん (もとOL)	Kさん (会社員)
Fさん (大学生)	Lさん (会社員)

1. 参加の動機

- Aさん | 音楽関係の仕事をしたかと思っていたが、現実にはそれほど窓口はない。春日市にホールができたので、何か関わりを持ちたいと思った。
- Bさん | 大学の先輩からの紹介。何か外に向けた仕事をやりたかった。今年、新しく入った。
- Cさん | 将来、企画・音響などのイベントスタッフになりたいと思っている。ふれあい文化センターで発行している「エイ・メッセ」の募集記事を見て応募。
- Dさん | 雑誌「ふくおか」を見て応募。裏方の仕事に興味があったことと、会社の仕事以外の人的ネットワークが欲しかったことが応募の動機。
- Eさん | ふれあい文化センターから歩いて2分程度のところに住んでいる。この建物を工事途中から毎日目にしていて、この中で何かできることはないかと考えていた。
- Fさん | 新しくボランティアを始めた。大学生活では満足する楽しみを見いだせなかった。大学の友人は就職の際にはいずれ競争相手になる。勝負のない世界での知り合いが欲しかった。
- Gさん | とにかく何か手伝えることがあればやりたいと思った。裏方も以前から興味があった。ひとつのことをやる目的で全く違う世界の人達が集まれるのは素晴らしいことだと思う。
- Hさん | 1ヶ月前に入った。昨年、文化祭でふれあい文化センターを利用した際にK's Crewの活躍を見て興味を持った。勉強だけに自分の時間を使うのはもったいないと思った。
- Iさん | 就職を控え、学校の勉強だけでなく様々な体験をしてみたかった。
- Jさん | ふれあい文化センター内にある「関係者以外立ち入り禁止」の中に入ってみたかった。
- Kさん | もともと忙しく走り回るような仕事、例えばイベント会社のような仕事をしたいと思っていたが、実際には叶えられないでいた。裏方・表方のどちらをやりたいのか、自分で見つけるためにK's Crewに入った。
- Lさん | 音響のサークルを持っていた。「エイ・メッセ」の募集記事を見て電話をしたところ、担当者の熱意が伝わってきて、手伝おうと思った。

2. 満足度

- Aさん | センターに関しては、我々の活動に柔軟に対応してくれるので大変感謝し

ている。居心地が良いと思う。近隣のホールでのボランティアにも参加したことがあるが、予算がないだけでなく活動に対する制約が多かった。また、職員の意識にも違いがある。ボランティアに対して「施設を使わせてやっている」という意識が見えかくれする。

- K's Crew 内のニュース「Crew's Press」は随分早い時期に個人的なレベルで作りはじめ、ミーティングに参加できないスタッフに送った。現在も「K's Crew's Press」として継続して発行している。
- アコースティック・トークライブはもともとホール側担当者の企画。昨年4月に K's Crew で担当してみないかと言われ、2～3人で天神のライブハウスに足を運ぶようになった。出演するアーティスト側はセンターの職員ではない我々が出演依頼をしてもまずは快く引き受けてくれる。おそらくステージさえあればどこでも、という感じなのかもしれない。
- アコースティック・トークライブの観客層は、出演バンドの個人的なファンかセンターに来ていて偶然公演を知った人。春日市という場所は、福岡から春日駅までなら出かけるのも困難ではないが、春日駅からセンターまでの交通の便が悪すぎる。

Bさん | 最初はモギリ程度の仕事しかしていなかったのですが、アコースティック・トークライブが始まって随分と中身が濃くなり楽しくなりました。大学でバンドをやっていたので、PAにも興味があり裏方にはなつかしさも覚える。

Cさん | 去年はなかなかサポートに参加できず、また仕事の内容にも満足できないでいたので、実は自然消滅しようと考えていた。(イベント企画、照明の操作、衣装の制作などをすると考えて参加したが、当初はチケットのモギリ、ケータリングの補助などお手伝いの要素が強かった。) 今年になって来てみると K's Crew のメンバーが以前よりもイキイキと活動するようになっていて可能性が高まっているのを感じた。今は満足している。

* 「エイ・メッセ」にある募集記事のうち、裏方に興味を持って応募した人4名、会場整理0名、タレントへの対応2名、企画に興味を持った人6名。実際のサポートは会場整理を中心に始まった。

Dさん | ネットワークをつくる、という点では恐らく100%満足している。福岡市内から電車で通うことをおっくうに感じることも当初はあったが、K's Crew の誰かが個人的に連絡をくれるなど繋がりが完全に絶たれることがなかった。仕事ではアコースティック・トークライブの担当者になっている今が一番楽しい。福岡市内のライブハウスに行くとアマチュアのバンドを捜すなどこれまでにない楽しみを見いだしている。

Eさん | もともとハコ(建物)に対する興味から入ったので、仕事に対する不満はない。ホール側担当者の話を聞いているとガンバロウと思えてくる。サポート以外でもボランティア内の行事(レクリエーション部に入っている)を企画するなど、生活に密着している。

- 企画をするためにはモギリの仕事も決して無駄だとは思わない。会計を担当しているが、報酬やその支払い方法(一旦施設側からスタッフ個人に支払われたものを会計に渡し、交通費実費の額に応じて再配分する)についても特に不満はない。

* 春日市内在住者が50%。それ以外の地域からは1時間程度かかる。最も遠い人で

■ 春日市ふれあい文化センター

片道2時間はかかる。

* サポートは希望制。ミーティングの際に活動可能な日程を挙手で決める。足りない場合にはセンター職員で対応。

Fさん | 新しいところでの人との出会いについては満足している。仕事の内容に関しては、舞台裏の仕事もよくわからないし、それを本当にやりたいかどうかもよくわからない。現在のモグリで満足している。

Gさん | 人を求めて来たという面では、同じ目的を持って集まれ満足している。センターの職員の方々にも親近感を感じる。舞台裏も積極的に見たい。ここでやれることの可能性を感じる。交通費も支払ってもらえるだけで有り難い。ボランティアというよりもむしろ、市民活動団体あるいはサークルといったイメージ。趣味の延長上にある。

Hさん | ミーティングには出てきているが、実際のサポートは未だしていない。

Iさん | 面白いと思う時と、そうでない時がある。土曜シアターに継続的に関わることになってから、大人と同じように「いらっしやいませ」などの言葉を使えるようになった。

Jさん | 当初思っていたものと少し違うような気もするが、実際自分で何がやりたいのかわからない部分もある。高校生なので平日のイベントには入りにくい。祭日の方がイベントは多いので特に問題は感じない。

Kさん | 仕事を持っているため時間に限界があり、イベントでももう少し奥深いところまで関わりたいと思うが現実には対応できない。K's Crewのミーティングには多くて月1回。実際のイベントには多くて月に2回程度の参加頻度となっている。

Lさん | 異業種や年代の違う人との交流ができるようになった点は満足している。また楽屋でタレント等のふるまいや人柄に直接触れることができた点も良かった。

- ・アコースティック・トークライブについて、PRとしては、チラシを作成してセンター内や春日駅に置いてもらっている。地元のFMでも情報を流してもらおう。会場のAVホール(50名のキャパ。立席で70~80名)は丁度良い大きさ。当初1年間は300人のホールを使用していたため客席がうまらなかった。相応の会場に移り、ミュージシャンとも近くなり、観客の反応も良くなった。

3. 施設側への要望・課題等

Aさん | 個人的には、アコースティック・トークライブについて、今のステージではアーティストと観客の間に距離がありすぎると思う。本当に感動するステージを600人のホールで実現してみたい。

- ・もうひとつは、ボランティア活動自体について。日本のボランティアは関西大震災以来興味関心は高まっているものの、まだまだ後進国。ボランティアに対する偏見もある。それを変えるための受け皿を自分たちがK'Crewでつくりたい。

Bさん | 音響をもう少し勉強したい。センター側で音響機材など技術的な面での研修や企画に関する研修などを開催してくれるととても役に立つと思う。

■ 春日市ふれあい文化センター

- Cさん | スプリングホールを使ってアコースティック・トークライブでやっているような企画をやりたい。
- Dさん | K'Crew で対応できることに関して研修を受け、もっと勉強してみたい。
- また、立地条件が悪いので、それでも人が来るような企画をして欲しい。これまでのセンター側とのやりとりの経験からは、こちらからの要望に対しては、随分柔軟に受け入れていただいていると思う。
- Eさん | ひとつの企画を最初から最後までやりたい。あと、継続してやっている土曜シアターについては、映画上映の前にアナウンスを入れるなど、関連した企画を考えてみたい（現在の業務は、当日券の販売、モギリ）。そのためには、上映作品を事前に見ることができたりすると良いと思う。
- Fさん | センターの職員の方々はとても快く対応してくれていると思うので、特に要望はない。センターの運営に関しては、館内放送がないので、放送で公演やイベントの情報を流すようなことがあっても良いのではないかなと思う。
- Gさん | ある程度の規模のコンサートを1から10まで、つまり企画から始め観客の満足度を感じるところまでやってみたい。音響や舞台に関する研修などが可能なのであれば、是非やってほしい。
- Hさん | K'sCrew を始めて日が浅いので特に要望はない。周囲の人達のレベルに早く達したい。
- Iさん | あまり観客が入らないようなアーティストを呼んで、会場をいっぱいにしてみたい。
- Jさん | K'sCrew をやめても、ここでの経験が生かせるような活動がしたい。
- Kさん | 有名なアーティストを呼んでコンサートをやりたい。春日市ではいわゆるオバチャンにパワーがある。彼女たちの層をターゲットにし、観客がいっぱいになるようなコンサートをやってみたい。
- 交通の便が悪いので友人を誘いにくいと思うこともある。特に最終バスの時間が早いので、アンコールが長くなるとバスに乗り遅れるため、バスの時間を気にして拍手をするようなことになる。コンサートの送迎バスがあれば良いと思う。
- Lさん | 我々のより幅広い活動のために、教えて欲しいと思うことはたくさんある。
- 職員の人にもボランティア活動を体験してみたら良いと思う。センターでの仕事に関わりたいたいという純粋な気持ちからここに来ているが、それが精神的・体力的に大変なこともあるので、それを理解して欲しい。
 - K's Crew をやっていることで仕事をおろそかにしていると言われたくないので、通常以上の努力を職場でもしていると思う。K's Crew をやって強くなったと言われたい。

—以上—